

# 生と死について考える

今出川

春学期・木曜4講時(14:55~16:25)

韓国メソジスト教団派遣宣教師・立命館大学非常勤講師

朴 シネ

私たちは皆、それぞれの個人的資質や能力、社会的・経済的・文化的な生活環境などのあらゆる違いにもかかわらず、初めから抱え込んでいる死という絶対的な限界性によって根本的な悲惨さを共有する存在であります。人間である以上、死を免れることはできません。このような死への存在の自覚が、私たちが人間として生きるための根本的な条件として課せられており、このような人生の有限さを理解し、受け入れることにより、命に対する慈しみが生まれ、人生の真の希望が持てるのであります。

この講座では小説、手記、詩、音楽、美術、映画、聖書などのテキストを取り上げて、様々な角度から死の問題について考え、いかに生きるかを共に考えていきます。

- 募集人数 20名
- テキストなど 『死のカー死と向き合う教育一』(朴シネ著、晃洋書房、2015年)  
テキスト代のみ
- 必要な費用
- 注意事項 受講者の人数、経験などによって、授業の内容や順序は変わることがあります。  
**要・欠席の連絡**



## 講座内容

	講座内容
春学期	1 生と死について考える旅への招待
	2 私の死を生きる — 一人称の死の意味を考える —
	3 生と死をつなぐアート — 人生という作品の仕上げに向けて —
	4 大切な人の死を生きる — 二人称の死の意味を考える —
	5 喪失体験と悲嘆の作業について
	6 他者からの呼びかけとしての死の直視 — 三人称の死の意味を考える —
	7 子どもにおける死 — 死へとかわる存在としての子ども理解を求めて —
	8 宗教における生と死 — キリスト教における死生観を中心として —
	9 様々な死の儀礼に見る死生観
	10 死を生きる — 「そして私に与えられた道を歩いていかねば」 —